

—水上競技部—



- 体育会名：関西学院大学体育会水上競技部
- 創部年：1919年(大正8年)
- 2025年度会員数：69人(4年17人、3年13人、2年21人、1年18人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会水上競技部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称：
- 設立年：
- 会員数：

水上競技部は1919(大正8)年、高等学部商科学生の横井時直が安達金城らとともに創部した。24年パリ五輪に石田恒信が200m 平泳ぎで出場し、関学初の五輪選手となった。同年には、日本初の東西大学対抗戦となる早関戦を開催した。

29年に学院が上ヶ原へ移転する際、プールが新設され、30年には伊藤英逸が極東五輪100m自由形で4位入賞。

その後関西学生選手権では常勝を誇っていたが、42年以降は戦時情勢逼迫のため練習不可能となった。

終戦後の46年、活動が再開され49、50年の日本選手権では山本速水が100m背泳にて2年連続で優勝した。63年までに24度の関西学生選手権制覇を達成したが、その後は低迷期に入り、70年代には関西2部4位、部員わずかに6人という時期も経験した。

飛込では津谷(馬淵)鹿乃子が56年メルボルン、60年ローマ、64年東京と3大会連続の五輪出場を果たし、東京大会では飛板飛込で7位に入った。

津谷は関学入学前だった57年からの日本選手権3連覇を含め飛板飛込を10度制し、その後は2024年パリ五輪のメダリスト玉井など後進の指導に携わった。

87年、中田努をリーダーとして水球チームが復活。94年には早くも関西学生リーグ制覇を成し遂げた。翌95年は関西学生リーグを連覇(以降98年まで5連覇)、木村朋広、和田康太郎、岡島弘志、田中秀和がベスト7に選ばれた。

競泳では81年の上山カナ子から始まった女子チームが88年関西学生2部で優勝、1部昇格を果たした。この頃から部員数が増え、92年から再開した一部の学部でのス

ポーツ推薦制度により選手層が厚くなったことで復活を果たした。

竹下裕之コーチらの指導のもと、97年には中園博喜、中西昭博、清水健次郎が77年の北村公一以来20年ぶりの個人関西制覇を達成し、競泳男子は99年まで3年連続で関西準優勝を達成した。

女子の活躍もめざましく、2004年には関西学生で武庫川女子大に迫る勢いであった。そして13年には競泳男子が50年ぶりに関西学生選手権に優勝(通算25度目)した。以降多くの関西制覇者を輩出、また日本学生選手権でも別表記載の者が決勝に進出した。

水球は一時期2部に低迷していたが、23年に1部へ復帰、以降毎年関西学生リーグベスト7を輩出し、リーグ制覇を伺っている。

25年、久しぶりの飛込競技者である嶋崎菜乃が入部し、日本学生選手権飛板飛込で4位に入賞した。

別表

日本学生選手権 決勝進出者(平成以降)

年度	選手	種目
1992	榎田 真由子	200M平泳ぎ
97	中園 博喜	100Mバタフライ
98	清水 健次郎・中西 昭博・関田 信之・山田 克樹	400Mフリーリレー
99	吉田 達矢	100M平泳ぎ
	蜂谷 進午・吉田 達矢・中園 博喜・山田 克樹	400Mメドレーリレー
2001	林 隆太郎	100M背泳ぎ
	池田 千容	100M背泳ぎ
		200M背泳ぎ
02	池田 千容	100M背泳ぎ(2位)
03	池田 千容	100M背泳ぎ
04	池田 千容	100M背泳ぎ
06	池田 益千	100M背泳ぎ
		200M背泳ぎ
07	小林 真衣	50M自由形

		100Mバタフライ
12	樋口 拓夢・文野 知弥・崎久保 拓洋・中村 豊	400Mフリーリレー
13	森 元秀	50M自由形
	森芳 慎平	1500M自由形
14	森芳 慎平	1500M自由形
15	佐野 武	1500M自由形
21	森下 翔太	100M自由形
	塩川 裕也	100M背泳ぎ
		200M背泳ぎ